



実戦形式で練習する本県チームの選手たち（写真上）。本県の形を模した青森ポーズをとる本県チームの選手、コーチ（同下）＝17日、八戸市の南郷陸上競技場

本県女子

青森ポーズで初トライへ

29日に開幕する第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体2018」のラグビーフットボール女子（7人制）に、県内の高校生、大学生らでつくる本県選抜チームが初出場する。2016年に女子が正式競技となり3年目で、念願の出場権を獲得。合同練習で培ったチームワークで、決勝トーナメント進出を目指す。

17日は八戸市の南郷陸上競技場で最終調整し、連携などを確認した。福田国康監督は「パワーがある選手の力で相手守備をこじ開け、足の速い選手を生かして得点したい」と語った。

チームは17年春に発足した八戸学院大女子ラグビー部を中心に、同市の高校生や青

ラグビー7人制 初の国体

森商、三本木農の生徒らで構成。競技人口が少なく女子同士での練習に限られる中で、今年4月から月2回程度の合同練習を重ね、実戦形式でプレーする機会を確保したことで、8月末の東北総合体育大会優勝と国体出場権を獲得した。

練習中は盛んに声を掛け合う。本県の形を模した青森ポーズで盛り上がるなど、明るさと仲の良さも武器。鈴木佳寿音主将（同大2年）は「一人一人が良いところ、得意なところを出して、結果を残して青森のラグビーを盛り上げたい」と意気込んだ。

福井国体には全国10チームが出場。本県は10月3日の予選プールで大阪府、新潟県と対戦する。
（新村菜穂）